

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第1回運営委員会 開催日：4月8日。出席者：松下委員長，ほか6名。

1. 各分科会報告

第1回の運営委員会であり，和文，欧文，講演，出版の各分科会の48年度活動を中心に報告された。

2. 「鉄と鋼」寄稿規程改訂について

和文会誌分科会において検討された改訂案が承認された。主な改訂点は，論文の頁制限，トレースの著者による墨入れである。

3. 運営委員会，各分科会の49年度会計予定について検討がなされた。

第2回和文会誌分科会 開催日：4月8日。出席者：松下主査，ほか10名。

1. 「鉄と鋼」第60年第5号（4月号）が完成し，発送済み。

2. 「鉄と鋼」第60年第9号（8月号）に論文13件技術資料1件，技術報告1件の掲載が決定した。

3. シノプシスの書き方について
規程にはシノプシスの書き方が記入されていないので規程した方がよいとの意見があつた。

第2回欧文会誌分科会 開催日：4月16日。出席者：橋口隆吉主査，ほか10名。

1. 10件の論文について審査報告がなされた。

2. 「鉄と鋼」60年5号，60年8号のアブストラクトおよび「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，計6件の論文について投稿を勧誘することになった。

3. Trans. ISIJ を月刊誌にすることが検討され，理事会においても検討してもらうことになった。

共同研究会

品質管理部会

第4回機械試験小委員会 開催日：4月17日。出席者：白浜主査，ほか24名。

機械試験の自動化，規格，検査制度の3つの主テーマについて今後の運営方針を決めた。

また規格については，引張り，衝撃試験試験関係などの機械試験関係の各国規格を比較し，勉強して，今後のJIS改正，ISOなどの審議に対して注目できるようにしようということになった。

今回は東洋鋼板下松の予定である。

標準化委員会

第3回引張・衝撃試験原案作成分科会 開催日：2月22日。出席者：川田主査，ほか26名。

場所：経団連会館 902号

1. 衝撃試験方法について

素案を審議した。大きく訂正するところはなく承認された。

2. 引張試験について

引張試験片については，比例試験片，定形試験片と2つの種類に分類する原案であるが，個々の試験片についてはまだ問題があるところもあるので，次回までに意見を提出することになった。

3. 引張試験方法

引張試験の精度，引張速度等について今回だけでは決定に至らなかったため，次回までに意見を提出する。

国際鉄鋼技術委員会

昭和49年度第1回委員会 開催日4月1日。出席者：豊田委員長，ほか11名

SEAIISI に日本より事務局次長を派遣することとなり新日鉄の吉武英吉氏が就任された。

ヨハネスブルグ大会（1973年10月）に引続いてミュンヘン大会が開催されることとなり，日本より提出すべき資料について，構成など打合わせをして，次回（4月23日）までに各社，用意することとした。

昭和49年度第2回委員会 開催日：4月23日。出席者：豊田委員長，ほか14名。

6月のミュンヘンでの委員会に提出する資料についての検討を行なった。焼結に関しては，新日鉄，鋼管，川鉄，住金よりの資料をまとめ，設備的問題と作業上の問題を論じることとした。また検査の問題については，新日鉄，鋼管，住金，神鋼，大同より資料の提出があり，まとめることとした。

梅根氏が委員長に就任したので，委員代理の人選を鉄連で早急に行なうこととした。

鉄鋼基礎共同研究会

凝固部会

第7回部会 開催日：4月5日。出席者：郡司部会長ほか31名。

凝固組織，凝固時の熱伝達，核生成などの問題について，梅田，高石，森，大中，大井，松竹，大橋，川和各委員より発表があつた。

各件1時間近くの発表と討論を行ない，従来の研究のreviewについてもよくまとまったものが提出され，非常に有意義であつた。またエフチング写真集がまとまったので，何らかの形で出版することになった。

第1回特殊精錬部会第3分科会 開催日：4月24日。出席者：郡司主査，ほか20名。

初会合であるので，郡司主査より，分科会の意義について説明があり，運営方針を含めて委員の了解を得た。

共同研究できるテーマは初めよりスタートし，最初の1カ年は自主発表の中から共同研究テーマを検索するという二本立てですすめることとした。

今回は9月を予定している。